

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700434		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	グループホーム えみな栄町		
所在地	岩見沢市栄町2丁目25番地1 (電 話) 0126-32-2820		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月11日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 (19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	～1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13000円
敷 金	無		(11～4月別途6000円)
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月11日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1		要介護 2	3
要介護 3	3	要介護 4	1
要介護 5	2	要支援 2	
年齢	平均 80.2 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東町ファミリークリニック・松藤医院・はたて歯科・鍵谷歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所名にある「えみな」は、「あなたが笑う」という語源を持ち、利用者のみならず、家族や職員がたえず微笑んでいられるよう、心に笑みが持てるよう、お互いの絆を深めながら、大家族のように生活を送っているホームです。職員は、要介護度が高くとも、豊かな日常生活をいかにその人らしく過ごしていただくかを日々考え、目的を持ちながらの外出支援など認知症状の緩和に努めています。また、医療機関の連携や協力体制を整備し、家族の意向により、ターミナルケアや重度化の支援が図られています。建物内にグループホームとデイサービスセンターが廊下を挟み併設されており、気軽に通所者との交流ができることも特徴です。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については、13の改善課題がありました。権利・義務の明示については家族に分かりやすく明示をし、換気・空調の配慮はウイルス除去を兼ねた空気清浄機を設置するなど、一つひとつ丁寧に課題に対し取り組まれており、改善に向けて努力されていました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者は、評価の一連の過程を通じてサービスの質の確保や向上に役立てようとする前向きな姿勢が伺われます。評価の意義などを職員に周知して全員で話し合いながら自己評価を実施しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ケアサービスの実際やホームの実情などの報告をもとに質問や意見交換が行なわれており、地域住民とともに生活していく中で発生する課題についても討議されています。また、会議の中で認知症の学習会を行なうなど、より理解が深まるように専門職としてホーム機能を還元しながら、運営推進会議を活かした取り組みを模索しています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情相談機関を作り、本人、家族からの指摘、苦情について受け止め解決する体制が整備されています。家族の訪問時や行事協力を得る場面などで、気軽に意見や不安などを話してもらえよう努め、ケアサービスや運営に反映するよう取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事参加や地域の方々からのお裾分けなど、徐々に交流が深まっています。保育園や地元ボランティア、自治会の協力のもと日常生活での交流や自然な形でお付き合いができるよう、利用者の状況に配慮しながら取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス導入前の平成17年開設時より、「地域社会との絆をより強い、より深いものにし、大切にしていく」と、謳われており、住み慣れた地域での安心した暮らしをささえるための理念が策定されているが、掲示の仕様により外部に対して判りづらい部分がある。	○	法人設立の際、職員とともに作り上げた理念であり、事業所としての全体理念ではあるが、掲示の仕様により、総合ホーム長の個人理念と誤解を受けやすい。来訪者等に対しても判りやすい標榜を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については全体で話し合う機会を持ち、具体的なケアについての意見統一や日々振り返りを行なう中で、職員全員が確認をし合っている。ホーム理念をもとにした職員一人ひとりのケア理念があり実践に向け取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板のやりとりや公園の清掃、盆踊りなどの町内会行事に参加している。保育園との交流行事や地域の方からの野菜やお花のお裾分けなどもある。利用者のほとんどが要介護度の高い状況ではあるが、孤立せず、地元の人々とのできる限りの交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでおり、評価のねらいや活用法について理解している。評価一連の過程を通じ、ケアの振り返りや見直しに取り組まれ、サービスの質の確保に活かされている。		

岩見沢市 グループホーム えみな栄町

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月より4回開催され、サービス提供の実際やホームの実情などを報告し、会議メンバーによる意見交換が行なわれている。また、会議では、認知症についての学習会を行なうなど、グループホームや認知症高齢者への理解が地域へより深まるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ケアサービスやホームの現状、介護保険制度について情報を共有し、できるだけ話す機会を確保している。また、社会資源としての役割や市民ニーズに対しては、前向きな姿勢でサービス向上に取り組むことを目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し、利用者の暮らしぶりについてエピソードを交えながら知らせている。健康状況はその都度連絡を行ない、金銭管理については定期的に報告がされている。行事以外の生活の様子もこまめにスナップ写真に収め、積極的に利用者の様子を発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、「入居後も、社会的な繋がりを継続させてほしい」など、具体的な意見が出されており、郵便局や商店へ外出する場面作りを設定し、運営に反映させる取り組みを行なっている。また、ホーム内、外部に苦情相談窓口を設けて体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動や、やむを得ない離職の場合は、職員全員で利用者をサポートをし、ダメージの緩和に配慮している。運営者は、職員ができるだけ長期間、勤務できるよう常に相談役となり、馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員個々に応じて、研修会や学習会への積極参加を促し受講できるよう体制を整えている。日常の介護場面で職員の力量が高まるよう、車椅子の操作においては、砂浜でのトレーニングを実施するなど、技術的な研鑽を深めている。個人目標評価シートを導入して繰り返しステップアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとはさまざまな相互交流が実施されている。本州のグループホームと連絡を取り合う機会は持たれているが、そのほか法人以外でのネットワーク作りや相互訪問活動などの交流や連携への取り組みには至っていない。	○	運営者は、市内の同業者との連携や交流の必要性を認識しているので、サービスの質の向上を図る上でも、今後、積極的に取り組まれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や面談のほかに、希望や状況により体験入居を実施し、本人の納得を得てサービスを開始するなど、個別の利用調整を行なっている。利用者が一日でも早くホームに馴染めるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながら信頼関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀愁を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の家事をともにこなす中で、年長者の利用者から生活の技や生活文化を教えてもらいながら過ごしている。利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にし、利用者中心のパーソンセンタードケアを徹底し日々の暮らしを支援している。現在不安に感じていることなどを、非言語的コミュニケーションも交えながら把握に努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を導入しており、一日2回の申し送りでミニカンファレンスを実施し、日々利用者の状況を職員全員で把握してモニタリングを行なっている。家族の意向を聞きながら、その人らしく暮らし続けるための個別具体的な介護計画をチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期目標6ヵ月、短期3ヵ月の期間を明示し、期間に応じた見直しのほか、変化の兆しに予防的に対応していくためのプラン見直しが実施されている。入居者の状況が終末期に移行した場合、ターミナルケアに関する介護計画書を新たに作成するまでには至っていない。	○	ターミナルケアについてのたいおうは、主治医、看護師、家族、えみな栄町の四者で十分な話し合いを行ない、合意形成が図られている。今後は、看取り看護・介護を実施するための新たな介護計画書を作成するとともに書式についても検討され体制整備に取り組まれることを期待する。
季に					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や医療連携体制のほか、家族や本人の状況を考慮して墓参などの個別外出支援を行なっている。運営推進会議で地域の独居高齢者や見守りが必要な方などの情報が寄せられた場合はホームとしてできることを提案している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望や状況に配慮して、入居以前からの掛り付け医にも受診できるよう支援している。協力医療機関からの往診や24時間の連絡調整、訪問看護体制を確保し、健康管理記録シートを用いて医師や家族との情報伝達や連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際の早い段階から、家族と重度化や終末期について話す機会を持ち、最後をどのように迎えたか意向を聞いている。ターミナルケアの要望や意思確認については、その都度各連携機関を交え話し合いの場を持ち、「ターミナルケア要望に関する同意書」をもって同意や共有を図っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけるような言葉掛けや対応がないよう十分配慮し、医療機関などにおいて本人の情報を取り扱う場合は、「個人情報に関する同意書」のもと、法令を遵守してプライバシーの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、職員本位のケアを行わず、本人が望む過ごし方ができるよう努めている。食事終了時の形も決まりはなく、プレッシャーを感じさせることなく、ゆっくりと一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や力を活かしながら、好みの場面で食事一連の作業を職員と一緒にこなしている。流しそうめん、焼肉など玄関前広場での食事会や外食を取り入れ、食事に変化を付け楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を週2回設定しているが、希望があればその都度対応し、シャワー浴や清拭など状況に応じ支援している。利用者一人ひとりに合った言葉掛けで入浴を促し、職員がともに入り、安心して入浴が楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	要介護度が高く、認知症が進む過程において、いかに利用者が和みながら、喜びや生きがいを感じてもらえるかを職員は日々模索しながら場面作りを行ない、家事や畑仕事、レクリエーションなど、有する力を踏まえながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出掛け、外気に触れる重要性を理解しており、車椅子使用の利用者が多いが、家族の同伴を得ながらさまざまな場所へ目的を持って外出している。日々の買物や散歩のほか、海や牧場、紅葉狩り、初詣など五感刺激に配慮した支援が行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由により、午後8時～翌朝6時30分まで施錠している。利用者の外出傾向の把握や人感センサーを設置して見守りの連携を図り、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をしている。		

岩見沢市 グループホーム えみな栄町

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋の年2回、昼夜の時間帯で避難訓練を実施している。消防署による訓練のほか、自主訓練を重ね、計画から実施報告に至るまで指導を得ている。現在、災害に備えた救急パックや食料を発注している。災害時における地域住民との連携体制などの取り組みは行なわれていない。	○	地域住民との連携が図られるよう、運営推進会議などで協力を呼びかけ、実践的な訓練や災害時における体制が整備されるよう取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1300ccの水分量を確保できるよう支援しており、食事摂取量を記載して状態を把握している。刻み食など、個々に応じた食事の提供が行なわれ、栄養バランスやカロリーは、栄養本を参考にしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニング形式の居間にあるソファークーナーは、カーペットを敷き詰め足元が保温されるよう配慮されている。トイレは車椅子でもゆったりと使いやすいよう設備されており、広い多目的室や長い廊下は用途に合わせて有効に活用されている。利用者と職員の手作りの装飾やスナップ写真は、温かみや季節感を醸し出していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、一人ひとりに応じた生活しやすい居室作りがされている。馴染みの品々が持ち込まれており、クロゼットは衣装や生活用品など使いやすく収納され、思い出の品などが飾りつけされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。